

三重の文化振興方針（仮称）（答申案）の概要

第1章 三重の文化振興の考え方

- (1) 文化とは
- (2) 文化振興とは
 - ①意義・目的
 - ②対象範囲
 - ③施策領域
 - ④推進主体
- (3) 文化振興によりめざす三重の姿

第2章 三重の文化

- 今後求められること
- 誰もが、文化にふれ親しみ、互いに交流できること
 - 文化を記録に残して後世に伝えること
 - 多様な文化をひろめ、発信すること
 - 文化を生活やまちづくりに生かしていくこと

三重の文化

- (1) 特徴
- (2) 現状と課題

文化振興を進める視点(第3章)

- ① 協働(パートナーシップ)で推進する視点
- ② 誰もが文化に接し、文化活動に参加する権利を保障する視点
- ③ 人と文化の多様性を認め合う視点
- ④ ビジョンを共有し、評価する視点

第3章 三重の文化振興の基本方向

基本方向

方向1 ~広げる、高める~

活動の広がりの中で、文化を広げ高める

方向2 ~守る、伝える~

地域の自然と歴史・文化資産等を保存、継承する

方向3 ~つながる、発信する~

日本の他地域や世界とつながる

方向4 ~創造する、生かす~

今を生きる私たちの文化を創造し、くらしやまちづくりに生かす

方向5 ~支える~

文化振興の取組を支える

文化振興の取組を重点的に「支える」方針

施策内容

○誰もが多様な文化にふれ親しみ、学び、活動するための環境整備や自然と歴史・文化を育み、高めていくための支援など多様な取組が必要です。

○三重の豊かな自然や歴史・風土によって育まれてきた文化や、今を生きる人によって現代的に進化した伝統文化、新たに創造される文化など、多様な自然と歴史・文化が、県民の共通の財産として、次の世代に発展的に引き継がれるよう、みんなで守り育てるための取組を進めることができます。

○三重の文化の魅力を再発見し、三重の個性を磨いていくよう、日本の他地域や世界との交流・発信のための取組を進めることができます。

○時代にあった新たな創造と発展を導くとともに、自然や歴史的文化的資産を活用したまちづくりやものづくりに文化を生かして生活を豊かにする取組を進めることができます。

○多様な文化振興の取組を進めていくために、文化振興のための拠点を整備し、機能の充実強化をはかるとともに、多様な主体が役割分担しながら文化振興を支えるしくみや体制を整備することが必要です。

○自然を守り、文化の創造、継承、発展させるための取組を支える人材や県民活動を支援する団体を育成・支援するための取組も進めることができます。

県の取組

第5章 県の取組への提言

(1) 施策推進の考え方

- ① 主体をつなぐ
文化振興に関わる多様な主体が協働で取り組むことができる体制づくりと個々の活動団体等の支援を行う中間支援団体の育成を進めていくこと。
- ② 施策をつなぐ（総合的な施策展開）
関連する多様な施策において、総合的な展開をはかることが必要です。

(2) 県の役割

- 県が設置する文化振興拠点の充実強化
- 情報共有や交流を促進する場づくり（拠点間、団体間など）
- 中間支援団体、企業等と協働した活動支援体制づくり
- その他広域の自治体として担うべき役割に応じた取組

(3) 県全体の文化振興を進めるしくみ、体制づくり

- ① 市町との連携
- ② 民間の支援活動との連携
- ③ 多様なプラットフォームの展開
- ④ 県民活動を支援する民間団体（中間支援団体）の育成、活動支援
- ⑤ 県民の文化活動への支援
- ⑥ 取組を評価するしくみの構築

第4章 重点方針

三重の文化振興の重点方針

県民の活動を支援し、三重の文化振興の基盤となるよう県内の文化振興拠点間の連携を進めるとともに、人などソフト面から充実強化をはかることが必要です。

- ・個々の拠点の充実強化
- ・拠点をつなぐことで総合的な機能強化

文化振興の基盤づくり

展開方向1 県民一人ひとりの身近な「場」を拓き、つなぐ

- ① 個々の「身近な拠点」の充実 →考え方と情報の共有
- ② 拠点間の連携 →「文化と知的探求の拠点」との連携強化

展開方向2 県の「文化と知的探求の拠点」づくり

- ① 県が設置する図書館、博物館、美術館等の充実強化 →個々の施設の充実
- ② 県の「文化と知的探求の拠点」として、総合的に進める拠点づくり →県施設間の連携

みえけん愛を育む“しあわせ創造県”

- ①感性と創造性豊かな、知的探求心に満ちた人が育つ三重
②活力あふれ、魅力と個性を磨き、世界に向けて発信する三重